

第2回半田市男女共同参画審議会 議事録

開催日時	令和7年9月10日(水) 9時～11時
開催場所	半田市役所 会議室303
次第	1. あいさつ 2. 議題 (1) 令和6年度みんなが輝くチャレンジプラン基本施策評価に基づく市民評価について 3. その他
出席者	会長：末盛 慶 委員：板倉恵美、岩浪房子、鈴木靖隆、岡戸秀一、斎藤由華、杉川智美、岩本佳大、榊原衣麻 事務局：市民協働課長 渡辺富之、森幸、小坂優勢
議事録	
2. 議題 (1) 令和6年度みんなが輝くチャレンジプラン基本施策評価に基づく市民評価について 事務局より説明。	
会長	一人ずつ委員の意見を聞いた後、学識者からの意見を聞いていきたい。
委員	評価B。良い所は市の方針として働く親を応援するまちを掲げ男女共同参画推進ウィークでその特徴を反映した内容になっていたことが分かりやすかった。また、コココリンの活動の中でも女性の企業を応援する取組が目立つ、半田市の中で活躍する職員を取り上げ紹介している点も良い。 改善が必要な点は、男女共同参画月間のみパネル展示に力を入れるのではなく、多くの方が立ち寄る場所に常設で性の多様性に関する展示をし、手に取りやすい環境が必要。
委員	評価はCとしたが、中間目標の読み取り方を勘違いしていた。 児童向けはかるたで良いと思うが、高校生は講演会にあまり興味を示さないため、時代にあった手法があっても良い。
委員	評価B。教育現場、市民に向けた広報には力を入れていることは感じるが、例えば高齢者も含めより広く市民に出来ると良い。ただ行政としてはまずは教育現場が1番。さらには事業所や広く市民に向けた講座や、デザイン等を活用し多様性に対して理解を可視化できると良い。
委員	評価はB。アンケートの結果は半田市民として、もしくは日本国民としての意見なのか。半田市が大きく活動をしなかったとしても、日本国内で男女共同だと広く言われていることであり、自然と割合は上がるのではないか。その中で半田市として何が出来るか、と考えた際の活動に対しては、参加人数が少ないと感じた。活動内容の検討や、周知、活動の認知度を上げる工夫が必要。
委員	イベントは行われており、意識する方も増えるとは思いますが、一過性であり、イベントを行うこと自体が目的になってしまっている。イベント＝特別であり、当たり前にはなっていない。また、継続性やその後のフォローがなければ今後の見通しが見えず評価はC。
委員	評価B。「働く親を応援」をテーマとした記念イベントを男女共同参画の日だけでなく、1週間に拡大し実施したことでより市民に男女共同参画の意識向上を図れた点が良かった。

	<p>デジタル・シティズンシップという言葉についても拡充が必要。 多文化共生に関しては、言葉が通じない方が閉ざされてしまわないよう活動をしていく大切さを実感している。また、市職員全体に向け研修を行っていくことも良い。 全国的に意識が高まっている状況では目標はもう少し高い方が良い。</p>
委員	<p>評価B。外国籍の子どもに対して教育現場では将来日本で暮らしていくという視点で成長の見守り、教育をしている。ただ、保護者にまで浸透させるには行政に頼らざるを得ない。 また、デジタル・シティズンシップについてさらに浸透をさせていかなければいけない。子供から大人にも広げていきたい。</p>
委員	<p>男女共同参画の推進をしている各地域団体が協議をする場面も多くあるが、半田市は問題提議に対しその都度対応をしていると感じる。イベントを通じて意識の向上を図りたいが、意識が高い方に参加者が限られる。イベントや広報へのアプローチ方法の工夫し、広く啓発できる必要。また、行った取組が一過性にならないよう、男女共同参画を推進する団体を市としても作っていくことも必要ではないか。大府市では市役所外に男女共同参画に関わる部署を設けている。 継続していかなければいけないという意味で評価はB。</p>
会長	<p>評価を決めたい。 基本施策1に関しては、Bが7名、Cが2名。 Cの意見は貴重だが、全体としてはBとする。</p>
委員	<p>評価A。以前に比べ、様々な子育て支援が充実している。多様な働き方へのフォローがあり、男女問わず子育てに関わる機会を積極的に設けていこうとする取組を感じる。小中学校でのキャリア教育でも性別に捉われない職業選択を知る機会を学校で積極的に設ける姿勢を感じる。 改善が必要な点では、保護者向けにも啓発講座を通じ学ぶ機会の充実が必要。</p>
委員	<p>評価はB。親への多くのフォローがあることを評価した。</p>
委員	<p>評価はC。昨年と比較し、大きな変化、改善が見られないと感じた。参加していない方の意見も反映させられると良い。</p>
委員	<p>評価はB。数字の前年比が必要。出前授業が希望する学校のみというのは、受け身だと感じた。</p>
委員	<p>評価はC。子どもとの夏休みの過ごし方として、学校の教室を一部開放し教員志望の学生の模擬授業や、子ども主体のプレゼン、高齢者とのふれあいができれば良い。 人と人とのつながりを活かした仕組みに関して意見書に書いたが、ゲストティーチャーがあるとの回答は形式的な制度の説明だった。しかし、本質的な問い、問題には向き合っていないと感じた。実際にはどのように市民に届いているか、現場の実感、が聞きたい内容だった。成果の実行性、利用者目線での改善には直結していないのではないかと。 性の多様性というテーマを敢えて特別なタイトルで枠取りすることで逆に違いを協調することになり、子ども達に気を遣わなければいけない、配慮をしなければいけないものだと捉えさせてしまうのではないかと、という懸念があり、言葉選びが心配になった。</p>
委員	<p>評価はB。NPプログラムは馴染みがないが、良いと思った。声に出して語り掛けられることで心を救われる親も多いのではないかと。出前授業も良い取組。</p>

	参加したい人が情報を取りに行くのではなく、広く届けられると良い。企業は国の休暇制度が10月から始まるため、制度の周知も含め啓発や、平日の参加を呼びかけても良い。
委員	評価はA。出前授業が手挙げ制なことは教育現場としては学校、学年、学習過程、先生や子供のニーズに合わせて選べるためありがたい。
委員	子どもの意識向上も大切が、管理職に就く大人の認識を変えていく重要さを感じる。
委員	NPプログラムへの参加者が少ないことが気になるが、どのように広報をしているのか。 誰もが参加できる子どもの居場所作りを考えてもらいたい。中学生以上の子どもが憩える場所が必要。
会長	子どもの居場所に関しては学童保育だけでは賄えていない部分も多く大きな課題。体育館の解放や、中高生を含め勉強場所が足りないこと、夏休みの問題も含め、行政として早急に対応してもらいたい。
会長	1-2について、評価が割れている。A3名、B4名、C2名となっているが、平均を取るとBになる。 反対意見がないため、Bとする。
基本目標1 事務局より補足説明。	
委員	評価はB。子育て支援では、保育園の民営化を進め、保護者はサービスを得られる選択肢が増えたと感じる。また、幼児の定員枠も増えていることも評価できる。ただ、保育士不足に関しては、解消は難しいが、育児支援も含め、子どもの様子を知るために保育に充たる先生と保護者が直接話す時間が取れるよう、余裕を持った人員配置、配慮があると保護者の精神的負担も軽減できるのではないかと感じた。 子育てハンドブックの増刷により、有益な情報が広く行き届くようになった。虐待を発見する視点を持つこと、地域の目に付く所での啓発。 支援が必要な児童への見守りや小学校との連携が薄いのではないかと感じた。 女性農業者の支援として市内飲食店とのコラボや、女性ならではの視点で子育て支援を絡めたPRも取り入れていけるのでは、と期待をしている。
委員	評価はA。保育サービスが充実していると感じたが、代わり保育士の負担へのフォローが必要。 職場において男女平等だと感じる割合が低いことに驚いたが目標値は80%で良いのではないかと感じた。
委員	おでかけカレンダーは一括したネット検索が必須であり、改善を求める。
委員	評価はB。女性が働きやすい環境を考えた際、保育サービスの充実として待機児童数は改善されているが、夏休みや託児料の問題もあるため、企業の中での託児、そのための設備への案内があると良い。実際小さい子どもがいる女性の職場での活躍が難しい。
委員	ノー残業デーや育休取得の普及は個人向けではなく、企業に啓発が必要。なぜ導入が進まないかを企業に寄り添い、理由を明らかにするためのアプローチが必要。 保育園の民営化により待機児童解消にはなっても、安心して預けるためには保育の質も担保しなければいけない。

委員	評価はB。市としてワークライフバランスの周知、啓発をしているが良い。保育サービスを仕事に関わらず、リフレッシュのために活用できることは良い。SOSを発信する前に使えるよう、周知させたい。市から働きかけ、複数の企業が合同で保育サービスをすることも一つのアイデアだと思う。
委員	放課後児童サービスは良い。保護者への相談窓口は困り事があった際、大変頼りになる。 年度途中の待機児童が問題となる場合もあることを見据えた計画が必要。
委員	評価はC。民営化による保育園間の格差や公立保育園の老朽化が課題。ワークライフバランスは非正規の方に対する待遇についてもアンケートが必要。
会長	ノー残業デーの出前授業を人事関係の方向けに行うと良い。また、夏休みの期間だけでも企業内保育では保育士とお弁当業者をつなげ、セットで行政から紹介できると良い。
会長	2-1について、評価はAが1名、Bが6名、Cが2名。 全体としてB評価をしたい。
基本目標2 事務局より説明。	
委員	評価はA。商業、農業、観光分野、文化継承という意味で盆踊りでは女性が生き生きと活躍する姿が目立っていた。市民委員の男女比や職業分野を見ても、幅広い市民の意見を市政に取り入れ反映しようとする取組を感じる。 コココリン創設で今後ますます女性の起業支援体制の充実を期待する。
委員	評価はA。数字的にもあがっており、達成できると思う。 女性だからという理由ではなく、女性が優秀だから管理職になると考えられる。目標値50%でも良いと思う。
委員	公共施設等設計の段階で多目的トイレの検討をしてもらいたい。様々な人がいることを想定し、検討したができない、との結果でも良い。
委員	評価はC。情報が少なく、C判定にしたが、管理職に関しては男女問わず色々な考えがあるため、女性のパーセンテージのみに着目する必要はないのではないか。誰もが活躍できる社会という意味ではやりたい人がやれるようにすることが大切。ただ、ふるいにかける際に雇用形態が壁になることがあるのではないかと。非正規の女性の声を反映させる会議や役職に就ける枠を作ることですら女性が活躍できる社会になるのではないかと。
委員	女性活躍推進や、男女共同参画という言葉があることでイメージが先行し、逆に女性を否定してはいけない、差別繋がるのではないかと、という空気を生んでしまい、言いたいことが言いつらくなっていないか。関係者が委縮し、前向きな変化の妨げになってしまえば本末転倒。本当に必要なことは女性に優しい職場ではなく、性別を問わず誰もが本音を言え、一緒に考えられる風土。
委員	評価はBからAに変更したい。 商業分野のはんだオープンファクトリーでは人にやさしいまちづくりの第一歩として地域の産業を身近に感じられて良い。継続してほしい。 観光分野のはんだ盆踊りも良い。地域の盆踊りに参加し、自治区の役員として女性が活躍していることを知った。

委員	女性や高齢者、子どもの意見を反映させている取組が良いと感じた。市職員の持ち味を生かせる人材育成に取り組むことで先に繋がる。
委員	評価はC。半田市職員の離職率の高さ、女性管理職が少ないことが前回から言われている。職員さえも数値を上げられない中、一般企業はどのようになっているか。良い例があれば参考にする。躊躇する一因には残業があるのではないか。 役員になることで自治区行事への手伝いが大変負担。自治会高齢化の影響もあり、行事縮小や自治区解散も視野に入れた方が良い。
委員	トイレ問題が重要。市役所内誰でもトイレはいくつあるか。
事務局	各階に必ず設置はしている。市民が立ち寄る場所を中心としているため、1階に多く設置はしている。
委員	体育館の構想もあり、市の姿勢が出るため善処してほしい。
委員	男女で分かれていないトイレもある。
会長	市行政の女性管理職の少なさは半田市にとって課題の一つ。他市町とも比較し、進め方を参考にしてもらいたい。
会長	評価はA3名、B3名、C3名。平均するとBだが、意見が割れている。市の管理職を鑑み、Cという判断でも良いのではないか。
委員	管理職の条件として雇用形態が壁になっているという意味でのC評価だったが、実際の状況次第では変更可能。
事務局	正規職員以外が役職に就くことはない。しかし、専門のプロジェクトに加わることはある。
委員	C評価。
委員	観光面では女性の活躍は見られるが、女性管理職の割合では今一つ。総合的にはA評価としたい。
委員	何に対する評価なのか細分化されていれば評価は変わるが、目標値に対しては達成に値する。施策に関してはBでも良い。
委員	女性管理職の背景にあるものは何か。
事務局	一般的に言えることだが、仕事と家庭の両立の難しさ。職場だけではなく、家庭での理解、どちらも必要となる。
委員	背景を考え、改善する気付きとしてCとしても良い。ただ管理職の割合を増やすことでは本末転倒。
委員	基本目標に誰もが活躍できるとあるが、性別だけでなく、雇用形態が気にかかる。中間目標がゴールではないが、進捗状況は悪くない。
委員	目標値だけを見ればA評価。数値を上げれば良いのではなく、背景も加味するとBではないか。
委員	商業・観光分野の取組を見てA評価にした。管理職の割合に関してはモデルとなる人物が増えることで変わってくると思う。しかし見る視点によっては課題の発信をするという意味でC評価を付けることも悪くはない。
委員	管理職には色々な視点がある。商業・観光分野は評価したい。総合的にはBとしたい。
委員	市民委員の男女比を考慮するためには募集に際してもう少し女性への参加をアピールできると良い。また女性議員が少ない。夜の会議を減らし、議員も休みを自由に取る雰囲気作りは必要。 女性が企業しやすい環境にはなっている。

事務局	総合的な判断は決めるが、全ての意見については表記をし、今後改善が必要な点として検討していきたい。
会長	総合的にはB評価とするが、市の女性管理職の割合の低さは外部から指摘をされたこともあり、大きな課題であるため、文章の中に記載をする。
	以上